



23 TOKYO

区政会館だより

No.332

平成29年11月

新宿区



伊那市での自然体験ツアーで間伐作業を体験

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合



絆を大切に深化し続ける連携

渋谷区



毎年、渋谷区ゆかりの自治体も集まる「くみの広場」

ちがいを ちからに変える交流・連携



絆を大切に深化し続ける連携

新宿区は、高層ビルが立ち並ぶ新宿副都心や、全国有数の繁華街である歌舞伎町、江戸情緒あふれる神楽坂、多文化のまち大久保など、多様な顔を持つ魅力あふれるまちで、日本のみならず世界から多くの人が訪れています。その新宿区の国内唯一の友好都市が長野県伊那市。合併前の旧高遠町との友好都市提携から31年間、交流を積み重ね、絆を大切に、連携・交流を深めています。

31年間の友好関係で相乗効果も

「新宿の森・伊那」でカーボン・オフセット

伊那市は2006（平成18）年3

月31日に、当時の伊那市、高遠町、長谷村が合併して誕生しました。新宿区と伊那市との連携は、この合併前の旧高遠町と新宿区の関係から始まりました。江戸時代、現在の新宿御苑一帯が高遠藩主内藤家の下屋敷であり、その一部が甲州街道の新しい宿場「内藤新宿」となり、今の新宿になったという歴史的な縁があります。また、1982（昭和57）年、旧高遠町と新宿区の両ライオンズクラブの仲立ちで、高遠固有の種であるタカトオコヒガンザクラ10本が高遠町から新宿区に寄贈されました。

1986（昭和61）年に新宿区と旧高遠町が友好提携を宣言。合併後の伊那市との間でも2006（平成18）年に友好提携を結びました。

代表的な取り組みの一つに、「新宿の森・伊那」事業があります。2009（平成21）年度から伊那市の市有林の一部を新宿区が借り受け、毎年約30畝程度、間伐による森林整備を行っています。間伐などの森林整備を行い、木々の成長を促すことで二酸化炭素の吸収を促し、区内の二酸化炭素排出量と相殺するカーボン・オフセットを行っています。

伊那市から始まった「新宿の森」のカーボン・オフセット事業は、2010（平成22）年からは群馬県

沼田市と東京都あきる野市にも広がりしました。

区が行う自然体験ツアーでは手ノコの使い方を地元の人に教えてもらいながら間伐作業を体験したり、間伐材を使った木工工作など、区民にとっては都会でできない貴重な体験を提供しています。区立小学校の児童が伊那市を訪れ、田植えや稲刈り、新宿の森での間伐や森林散策などを経験する移動教室も毎年行っています。2014（平成26）年度からは農家に宿泊して田舎体験をする「農家民泊」も始まりました。

生まれたての赤ちゃんに木の温もり

新宿区と伊那市との連携事業で、心温まる取り組みが、誕生祝い品事業です。新宿区では伊那市の木工職人が作るおもちゃなどを誕生祝い品として贈っています。

以前は、図書カードを贈っていましたが、2011（平成23）年度からは区内で「東京おもちゃ美術館」を運営しているNPO法人芸術と遊び創造協会の協力により、伊那市で作られた木製玩具や、木製の離乳食

用食器など8種類の中から一つを選んでいただいて、お贈りしています。伊那市はこの事業により一定量の木製品が生産できることによる産業の活性化を図っています。

名付けて、「ウッド・スタート事業」。都会で生まれた赤ちゃんが、生まれたその瞬間から木の温もりを感じる事ができる日本初の取り組みです。

2011（平成23）年5月に伊那市の木工職人を中心としたグループ「ウッドフォーラム伊那」を立ち上



全国でも珍しい誕生祝い品

げ、伊那の総力を挙げて事業に取り組む体制ができました。どの木工品も、手にした子供たちが自然の樹木の質感・重量感・温もりなどに触れることで豊かな心が育まれるよう、伊那市の職人たちの願いが込められています。

区職員対象に農業体験ツアーも

職員の相互派遣交流も行っています。新宿区、伊那市からそれぞれ1人ずつ2年間、研修という形で相互派遣しています。互いの業務を学ぶだけでなく、それぞれの自治体に帰ってからも交流の窓口として活躍しています。

さらに、区職員を対象とした農業体験ツアー（1泊2日）も行われています。区の担当者は「友好都市とはいえ、行ってみたいと分からないこともある。職員の意識向上につながる」と話しています。

伊那市は花卉栽培が盛んで、毎日多くの人が訪れる新宿区役所本庁舎の1階ロビーで毎月、伊那市特産の生花を展示しています。

新宿区は、伊那市と民間との橋渡

しもしています。2016（平成28）年、新宿区と伊那市との友好提携10周年の節目に、伊那市と伊勢丹新宿本店が連携し、伊那市フェアが始まりました。今年も「MOTTA INAI」をテーマに、旬の野菜の販売に加えて、味は変わらないにもかかわらず、少し形が曲がっていたり、色が悪かったりするだけで、通常なら店頭に並べられない野菜を、全国の食の名店が総菜に調理して販売しました。

都市と地方それぞれの強み

「新宿区総合戦略」では、「伊那市との交流・連携を中心に、都市と地方がそれぞれの強みを活かし、補い合いながら、共に発展していきます」と定め、新宿区は、伊那市との友好関係のほか、他の自治体との交流・連携も進めています。

昨年11月19日に新宿文化センターで開催された「新宿区 若者のつどい2016」W Aになろう新宿」では、伊那市に加え、三重県、長野県白馬村、千葉県木更津市、栃木県塩谷町がブースを出して、PRしました。大ホールでのPRタイムには、



若者のつどいでは交流都市のブースを設け、ステージではPRタイムも

各都市のご当地キャラも登場し、イベントを盛り上げました。
 担当者は「他の自治体ともイベントなどで交流の場を設けるなど、交流・連携を進めています。伊那市との交流については、旧高遠町と友好関係を結んでから31年、絆を深めてきました。これからも着実に連携し、ともに発展していきたい」と話しています。
 「内藤新宿」の縁や、31年間の歴史で培った絆を大切に行っているからこそ、連携・交流が深化し続けているのではないのでしょうか。



夏目漱石ゆかりの自治体と連携

新宿区は、日本の文豪・夏目漱石が生まれ、多くの名作を著し、没した地です。区では、熊本県、熊本市、愛媛県松山市など、夏目漱石に縁のある自治体と連携して、文化の発信に取り組んでいます。漱石生誕150年に当たる今年9月24日、漱石が晩年の9年間を過ごした漱石山房跡に、夏目漱石にとって初の本格的記念館「新宿区立漱石山房記念館」がオープンしました。



9月24日には初の本格的記念館として「漱石山房記念館」がオープン

「夏目漱石記念施設整備基金」の賛同者には千代田区、文京区、熊本県、熊本市、神奈川県鎌倉市、愛媛県松山市、広島県安芸太田町など、漱石ゆかりの自治体の首長が名を連ねました。

新宿区と松山市は2015(平成27)年に「夏目漱石をゆかりとした歴史・文化及び観光交流に関する協定」を締結し、歴史・文化および観光分野での交流を深めています。松山市は9月1日付の広報紙「広報まつやま」に、漱石山房記念館のオープンについて掲載しました。新宿歴史博物館で9月24日から11月19日まで開催している特別展「漱石と子規一松山・東京 友情の足跡」は、松山市が共催、松山市教育委員会、広域観光連携推進協議会(松山市・東温市・砥部町)が後援しています。今後の記念館の展示において、資料の借用などで連携を図っていきます。

また、熊本県・熊本市・文京区とも同年、「文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書」を締結し、夏目漱石や小泉八雲をゆかりとした交流・連携を進めています。2015(平成27)年には新宿歴史博物館で協働企画展「熊本と新宿をつなぐ作家 漱石・八雲」を開催しました。この交流に端を発して、2016(平成28)年4月の熊本地震発生時には、新宿区は文京区とともに食料・飲料水・生活用品などの物資をいち早く届ける被災地支援を率先して行い、文化・歴史の分野を超えた交流・連携につながっています。その後も、2016(平成28)年12月に新宿区立四谷区民ホールで創作劇「アイラブくまもと 漱石の四年三カ月」(夏目漱石記念年特別企画、熊本地震復興祈念)を共催するなど、数々の連携事業を行っています。



平成28年12月11日開催の「新宿区夏目漱石記念施設整備プロジェクトVol.7 漱石のほほえみ」でのくまモンによる熊本県PR